



駿府と今川氏

第7回

駿府今川館はどこにあったか

駿府の名が

一般化するのには戦国期

駿河守護今川氏歴代が、駿河の国府のあった駿府に守護所を置いていたことは間違いない。国府のあるところは府中とか府内と呼ばれており、駿府というのは駿河の府中を省略した地名で、甲斐の府中を甲府と言ったのと同じである。

ただ、ずっと昔から駿府と呼ばれていたかという点、どうもそうではなかったらしく、文書・記録に表記されている状況を調べると、十五世紀ごろまでは、ただ府中と書かれることが多く、十六世紀、すなわち、戦国大名今川氏の時代から駿府が一般化していった様子がわかる。

ところで、そのころの駿府の状況と現況を比べたとき、大きく違っているのが安倍川の流路である。徳川家康が安倍川本流を西に移し、藁科川と合流させるまで安倍川本流はいく筋かに分かれながら、現在の静岡市の繁華街のあたりを流れていた。

こうした安倍川の流れ方を前提に、駿府今川館の場所を推定していかなければならない。

江戸時代には

不明だった今川館

駿府の町の様子を書いた地誌が江戸時代に何冊か刊行されている。しかし、守護所であり、戦国時代には戦国大名今川氏の本拠だった駿府今川館の位置を特定したものは見られない。わずかに現在の静岡市葵区屋形町が「お屋形」と呼ばれていた今川氏の居所ではないかとする記述がある程度であった。

それでは、駿府今川館はどこにあったのだろうか。

結論から言ってしまうえば、私は、現在の駿府公園の場所だったのではないかと見ている。そのように推定する根拠は三つある。

一つ目の根拠は、江戸時代の駿府城に四つ足門と呼ばれる門があり、その名前が今川時代の駿府今川館の四脚門があった場所に建てられたことに由来するという伝承があったことである。

二つ目は、現在、静岡市葵区沓谷にある龍雲寺の存在である。

この龍雲寺は、今川氏親の正室だった寿桂尼の菩提寺として建てられた寺であるが、寿桂尼が亡くなる時、遺言で「われ死して駿府館の鬼門を守らん」と言い、その遺言によ

って現在地に建てられたという伝承があるからである。

鬼門は艮（うしとら）と寅の間の方角。龍雲寺の位置は、現在の駿府公園のちょうど艮（北東）にあたる。

そして三つ目は、一九八二年九月から発掘調査が行われた旧駿府城二の丸馬場跡のさらに下層から戦国時代の遺構・遺物が多数出土したことである。



▲今川期を継承する四つ足御問跡

撮影：水野 茂（2点とも）



▲発掘された駿府今川館跡の一部